

第4回日野橋の在り方検討委員会 議事録

- 1 日時 令和7年3月27日（木） 10時00分～12時00分
- 2 場所 鳥取県西部総合事務所3号館 会議室（米子市役所 糺町庁舎）
- 3 出席者

委員：福山委員長、高増副委員長、浅井委員、三好委員、額委員、中森委員、
俵委員、高野委員、和田委員、長尾委員 ※順不同

事務局：伊達都市整備部長、山中道路整備課長、足立課長補佐、植松係長
大塚文化振興課長、原文化振興官、中原専門官

4 日程

- ① 開会
- ② 挨拶
- ③ 議事事項
 - ・ 市民アンケート結果について
 - ・ 地元意見交換会について
 - ・ 日野橋の在り方検討委員会報告書作成について
- ④ その他
- ⑤ 閉会

5 議事概要

〔市民アンケート結果について〕

- （委員） 利用調査について、前回の委員会で利用者はそもそも少ないことが分かっているが、市民全体にアンケート調査することについてはあまり意味のない調査だと考えている。
- （委員） 回答率が37.2%と高い結果となっている。改めて回答依頼をしたのか。
- （事務局） アンケートは、対象者を不作為に抽出し、郵送で行っており回答者に対して再依頼はしていない。
- （委員） アンケート調査結果をみると文化財としての認識が低い。これはやはり文化財としての認識を広めるべきではないか。例えば原爆ドームのように世界遺産となっているものもある。どういう風に認識してもらうかが重要である。
- （事務局） 日野橋に限らず文化財の周知については、課題と考えている。今後、考えていきたい。
- （委員） 文化財であることを知っているかについては、70代以上が多いとのことだが、アンケート結果を見ると10代も高いのでは無いか。
- （事務局） 10代は分母が少ないため文化財への認知が高く表れている。また、今回のア

ンケートや在り方検討委員会の報道で市民への関心が高くなってきていると感じている。

(委員) 20年前の議論では、アンケートをとっているか。また、報告書は作成しているのか。

(事務局) 当時は、第3者を入れた委員会および市民アンケートは実施してないため、委員会等の記録・報告書は無い。

(委員) アンケート結果は、箕蚊屋地区の関心が高い。文化財が大事と思う人は維持管理費が負担とならないなど、素直な結果が出ている。

(委員長) 日野橋の存続にかかわるアンケート結果は、これまでに分からなかった回答である。文化財としての認識も含めてわかったことになる。

(委員) 今後、撤去すべきという意見もあるが、今回は1回修繕し20年間はもつことが前提となっており、アンケートの中で今後とはいつのことを示すのかが分からない。20年先に修繕を行うかどうかの議論となるのか。これでは議論が絞れないのではないか。

(委員長) 大規模修繕を行うと何も起こらなければ20年は残る可能性はある。このため、報告書には、どのような本委員会の意思決定をするのかが難しい。

(委員) この前の地元意見交換会でも、今すぐ撤去するのか残すのかの結論を出すと思っている人もいたが、PCB除去のための修繕を実施すると少なくとも20年は残ると説明を受け安心している方もいた。

(委員長) 現状はどうだという形で提言を出すのが良いかもしれない。現状に踏み込んだ提言をする形としたい。今回の修繕工事があるので少し考える時間が、米子市と市民にもあたえられたと思う。

[地元意見交換会について]

(委員) 参加者は書いてあるが、世帯数(分母)に対しての参加者が分かるとよい。せっかく公民館で意見をまとめているが、その意見数がわかった方がよい。

(事務局) 地元公民館に協力いただき月1発行の公民館だよりで各世帯に配っている。かなりの数にアナウンスしている認識はある。各地区可能であればその参加率がわかれば報告する。

(委員) 車尾地区は、自治会加入率が50%くらい。自治会を通じての周知なので十分に周知されていないと思う。

車尾公民館については、2/7は大雪で中止となり22日開催となったため、参加者が若干減少した。車尾地区の住民は説明にあったように利用者は少ないが、愛着を持っている。1人は親柱を残して撤去しても良いとの意見があったが、大多数は、残してほしいとの意見であった。文化財としてもっと知ってほしい、利用してほしいとの意見が多い。

- (委員) 巖公民館の意見としては残してほしい、活用してほしいとの意見が多かった。駐車場を設けるなどの活用方法を考えてほしいとの意見があった。これまで橋を維持管理することに地元の人、地元の名士が関わってきたとの話もあり、残す方向で検討すべきとの意見があった。
- (委員) 地元意見交換会で配布された用紙は、アンケート形式ではなく、自由意見形式で答えづらい形だったと思う。
- (事務局) 3地区の会場では、アンケート形式ではなく、こういった考えをお持ちかを伺うような自由意見形式にさせてもらった。
- (委員) アンケートと地元意見交換会の結果を見て思った通りの結果であると思う。自分たちの世代が20年後に中心となって議論すると思う。自分の周りでは、今回の意見交換会の開催を知らなかった人が多かった。公民館に近づく世代なので知らなかった人が多い。紙の回覧をもらっても見ない人が多く、例えばQRコードとか他の方法で周知できなかったのか。意見を言いたかった人はいた。
- (委員長) 例えばどのような意見があるのか。
- (委員) 安全な通学路を確保すること。また、大事なものということは親・祖父から聞いている。米子市街地の人にも知ってもらうべきことだと思う。20年後の議論も変わってくるのかと思う。知るきっかけも無く知り方もわからない世代があるので知らせ方を考えてほしい。
- (委員長) 地元の方の認識と市民の認識が違っているのが明らかになっていることを市民の方が知ること大事だと思う。
- (委員) 私たち（巖地区）は米子にでるという言い方もする。市街地との差がはっきり出ている。
- (委員) 市民アンケートの結果を地元意見交換会の3地区のみで整理すると地元意見交換会との整合性がでてくるのではないかと。3地区をまとめて整理してもよい。また、自治会に加盟している世帯数も知りたい。
- (委員) 十分な情報が届いていない状態で答えるか、周知があつてからの状態で答えるのかで回答は変わってくるのではないかと。地元は意識が高い方が多い。アンケートをいくら細かく整理しても意味があるか分からない。
- (事務局) アンケートの集計は、小学校校区で分けているので整理できると思う。また、世帯数についても提示する。

【日野橋の在り方検討委員会報告書作成について】

- (委員長) 報告書については、委員会で議論してきた日野橋の経緯、文化財としての位置付け、橋としての交通機能、費用などを客観的に書く。さらに市民アンケート、地元、市民の方の認識をまとめる。これらの結果を踏まえて委員会として提案

をおこなう。

(委員) 撤去の28億は20年後には物価の高騰などでもっと高くなる。例えばPCBと一緒に撤去してしまうと将来撤去するより安くできる。このように撤去のタイミングをもっと精査すべきと思う。流れとしては20年後でよいのではないかという雰囲気ではあるが、委員会を設けた理由は維持管理等の費用負担が主な理由だと思う。負担の大きさに対する認識が不足していると思う。

(委員長) 委員会で撤去かどうかという結論を出す話はしていない。維持管理費の話は出ていて市の年間橋梁維持管理費のうち1/3程度が日野橋の費用である話などはでている。20年後に議論するのは遅い。次の修繕に間に合うタイミングで実施すべきである。

(委員) 前回(災害時)このような議論を行った記録は残ってない。今回の委員会を20年後にするとまた初めからの議論になってしまう。5年おきの定期点検などに合わせたタイミングで議論するのが良いと思う。

(委員長) 5年点検がうまくいった場合とうまくいかない(補修がいる)場合での委員会立ち上げのイメージを作ることも重要である。

(委員) 中期・長期での考えが必要である。2つのパターンで意見を集約してみてはどうか。後世への負担などを整理すべきである。ただ、次の点検(令和8年)では議論する周期が短い。

(委員) 修繕工事の準備はしているのか

(事務局) 令和7年度、令和8年度で工事を実施する予定で補助金の請求を行っている。補助なので国費がどれだけ付くかで工事内容は変わってくる。

(委員長) 現状の説明は今回しっかり踏み込みたい。現状としては、地元の方の思いはあるが、市のインフラとして維持していくことが厳しい状況であることを盛り込んでもいいのかなと思うが皆さんはどうか。

(委員) 今後、道路として利用者も少なくなっていく。交通手段としての維持管理と考えると米子市が管理しようとするのは市民の理解を得難いと思う。文化財として今後どのように活用するのかという整理が必要であると考え。交通手段でない場合の維持管理の負担はどのようになるのか難しいと思う。

(委員) 文化財としての位置づけをどうしていくか。これをどうゆう風に行っていくのが大事で、考えていく必要がある。

(委員) この委員会の在り方の提言をどのようにするのか。後ろ向きに撤去なのか、前向きには残すけれど費用負担がかかるという説明をするのかになると思う。個人的には前向きの提言が良いと思う。

(委員長) 維持するには費用はかかる、橋の利用率もさがるが、しかしながらという言い方が良いと思うが、期限がありますという位置づけになるのか。

(委員) 道路橋として修繕するが、国から補助金をもらう場合は、交通量がいくらない

と補助事業にのれないとかあるのか。文化財として維持していく場合の補助制度はあるのか。

(事務局) 登録有形文化財だと維持管理の補助はない。国宝・重要文化財であれば補助がある。道路橋としての補助については、交通量に対しての決まりはない。利用される限りは補助対象となる。

(委員) 大半のアンケート結果は、やはり負担がかかるという意見が多い。前向きな意見は大事だが、市民に対し危機感を持っていただく必要はある。今後、人口は減っていく中、負担が増大するという話を入れるべきである。

(委員) 負担はかかるが、文化財であるから在り方委員会ができている。文化財としてどう維持管理をしていくか。当然コストがかかる。アンケートでは、半数近くは景観が貴重との意見がある。そこを無視して撤去ありきの方針を打ち出すことは、避けなければいけないのではないか。

(委員長) 危機感を伝えることは必要である。危機感があるからアクションをとる。期限がある中でどのようなことができるか。そのような説明にできれば良いと思う。例えば、有効利用として米子市のサイクリング・ウォーキングロードなどと繋がられないのか。

(委員) トライアスロンのコースに入れたらよいのではとの意見もある。

(委員) トライアスロンは現在、日野橋を渡らず JR の下を通るルートである。

(委員) 修繕工事内容はどのように考えているのか。

(事務局) 修繕工事は鋼材の穴の補修・塗装を予定している。

(委員) 工事中に渡れなくなること（日野橋が無くなることを）を体験できるのか。

(事務局) 工事中の風景としてはパネルで囲まれている状態である。また、一時通行止めとなるが可能な範囲で交通は確保していきたい。

(委員) 下部工は対策しないのか。耐震性はどのようになっているのか。

(事務局) 下部工の補修工事は行わない予定である。耐震性については西部地震を受けても無事であった。

(委員長) 工事のプロセスを断片的にでも市の SNS を通して紹介するなどすれば、親近感が沸くのではないか。

(事務局) 広報の方法について検討を行う。

(委員) 現地に行かなくても見ることができる SNS はよい。段階的に工事状況を示せるとよい。見学会があってもよい。

(委員) 国交省がボランティアとして清掃活動等もしている（アダプトプログラム）そのような場で話ができるとよい。

(委員) 日野橋を PR することは良いと思う。ただ、存続に反対されている方に浸透していくためには、残したいと思っている市民が中心となった運動が良い。これにより、日野橋の在り方について気運を高められ 5 年後、10 年後に存続をす

るという声が増えていくと思う。そういう努力を行政も市民もやっていけたらどうかという提言もよいのではないか。

(委員) 日野橋については、皆さんが多く絵を書いており、写真もいっぱいある。

(委員長) 委員皆さんの意見を頂いた。報告書に向けて考えがまとまってきたのではと思う。

(事務局) 在り方検討委員会のこれまでの意見をまとめ、報告書(案)を作成したい。次回を7月の開催としたい。

以上